



## WANGAN 水路の都市

TOKYO 2006～2009年 写真・木原盛夫

WANGAN 水路の都市

TOKYO 2006-2009年 写真・木原盛夫

初めて東京のウォーターフロントを走る水上バスに乗船したのは、2006年3月に東京ビッグサイトで開催されたカメラの展示会の帰りだった。東京ビッグサイトから乗り、日の出桟橋で乗り換えて浅草までおよそ1時間の旅。水路から眺める東京の風景は、今まで知らなかった東京の表情を見せてくれ、新鮮な驚きに満ちていた。

水路から眺める都市の表情を定点観測してみようか、そう思って月に一度程度の水上バスからの撮影を自分に課した。そうして2006年5月から始めて2007年7月まで、2006年の7月を除き毎月撮影した。また、雪の降る日の景色を撮りたくて大雪の降った2008年2月3日と、2009年3月26日に東京ビッグサイトで開催されたカメラ展示会の帰りに撮影した写真を追加した。

水上バスの通るコースはいくつかあって、浅草→日の出桟橋→東京ビッグサイト→日の出桟橋→お台場海浜公園→日の出桟橋というように、乗り換えながらいくつかのコースに乗船。当時は一日乗り放題のフリーバスが1800円だったので、このチケッ

トを買って半日ほど水路の旅を楽しんだ。

コースは他に、日の出桟橋→しながわ水族館、日の出桟橋→バレットタウンがあった。豊洲→浅草というコースもあるが、これは松本零士氏がデザインしたヒミコしか運航しておらず、フリーバスではヒミコに乗船できなかったのが諦めていた。ところがヒミコが整備のためにドックに入る期間があって代替船が運航する事になり、めでたくこのコースをフリーバスで乗船する事ができた。

風景写真といっても、水上を走る船から撮影するのはライブ感に溢れていた。正面、右、左。大きい遊覧船なので、それ程の体感スピードはないけれど、それでも次々に目の前に現われる被写体にレンズを向ける行為はシューティング・ゲームにも似てワクワクさせられた。

「東京に空は無い」は、高村光太郎の智恵子抄だったか。でも、こうして写真を見返すと案外東京も空が広いじゃないか。

(2016年9月 富山にて)



W-004



W-005



W-006





W-008





W-009



W-010



W-011



W-012



W-013



W-014











W-018

川沿いに、あるいは少し離れた場所に林立する高層マンションを望遠レンズを使って撮影した。これだけ自由に高層ビルの全体写真を望遠で撮影できる場所は、水上バスくらいではないだろうか。

蜂の巣のようにひしめく高層マンションの窓を見ながら、迷路のようだなと思った。そして、漫画家・諸星大二郎の短編集『夢見る機械』に取められている「地下鉄を降りて」を思い出した。

大手町の地下街。ふといつもと違う通路に足をのばしたがために、その迷路のような地下街を彷徨う主人公。とにかく上へ上へと階段を上ったその先は……。

本の中に「いつもきまったルートをまもっていれば迷うことはない。東京という所は大体において安全だけれど、いったんこれからはなれた行動をしようとする、東京は巨大な迷路と化すのです！」というセリフが出てくる。

この高層マンションが建ち並ぶ様は巨大な迷路に見え、それでも多くの人々が迷う事無く自分の家に帰れる事を不思議な思いで眺めていた。





and more...